

保健体育科 学習指導案

日時・場所：平成17年10月4日(火) 5校時 体育館

学 級：3年男子(1組14名、2組14名、ずすかけ学級2名 計30名)

指 導 者：教諭 阿部 幸男

1 単元名 球技「バレーボール」

2 単元について

(1) 教材観

球技は、ボールなどを媒介として、集団対集団、個人対個人での攻防を展開し得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、チームの課題や個々の能力に適した課題に取り組んだり、ゲーム楽しんだりする運動である。したがって、球技では、攻防の作戦を立てて勝敗を競い合う過程やチームとして取り組んだ結果に楽しさや喜びを味わうことが大切となる。

バレーボールは、コート内で2つのチームがネットをはさみ、攻撃と防御にわかれ、レシーブ・パス・スパイク・ブロックなどの個人技能や集団的技能を發揮し、得点を競い合う競技である。一人一人の生徒がゲームに参加、貢献していると実感でき、個々の技能の高まりや集団的技能の質的向上に楽しさや喜びを見出し、みんなの力が結集され勝利を手にすることができたときの喜びが魅力でもある。また、生徒同士で課題を指摘しあったり、技能の向上に向けて教えあったりすることにより、生徒相互の信頼関係をはぐくむことができ、これからの「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」に向けての礎となるものである。さらに、筋力・調整力など多くの運動要素を含んでおり、体力の向上が図られることはもちろん、ルールやマナーの遵守や勝敗に対する公正な態度などは、社会生活における望ましい態度や行動にもつながり、人間形成に役立つ学習にもなると考えられる。

(2) 生徒観

生徒は、保健体育の学習への興味・関心が高く、ほとんどの生徒が意欲的に取り組む。ただ、運動に関し苦手意識のある生徒やずすかけ学級の生徒などへの配慮も必要である。また、ゲームを分析したり、課題を設定する力を育てきれず、個人技能や集団的技能の高まりを目指して自らが思考・判断して練習・ゲームを創造的に行っていくという段階には、達していないのが実情である。技能についても、大半の生徒が空間を認識する力が弱く、ボールの落下地点を予測したり、上がったボールに対して素早く反応することができないことが多い。

バレーボールに関しては、1・2年生で扱っているものの、サービスやパス、レシーブなどの基本的技能の習熟が弱く、ラリーの続くゲームに結びつけることができない。そこで、基本的技能の向上を図りながらも、バレーボールの醍醐味を味わわせ、チームづくりの過程で楽しさや喜びを見いださせていくことが大切であると考える。

(3) 指導観

バレーボールの学習においては、既習事項をもとにしながら、自ら課題を設定し、その課題を解決するために練習方法や試合を行っていく課題解決型の学習を定着させ、チーム内での役割を明確にし、協力して学習活動を進めさせていきたい。また、チームごとの話し合いを大切にしながら、技能を分析し適切な課題を設定させながら自主的・自発的なチームごとの課題解決に取り組ませしていきたい。そこで、指導にあたってはチームを向上させる視点をチームの共通課題として取り上げ、相互評価を行いながら、課題を明確にしていく過程を考えさせていきたい。

課題解決に関わって、チーム内で自分の考えを表現したり、プレーの中で互いに評価し合うことで刺激を受け、分析・気づく・工夫することで、さらに意欲的に取り組むことができるようにしていきたい。また、特別ルールなどの工夫によって、極力サービスやレシーブのミスによって得点が入ることを防ぎ、スパイクによる攻撃を中心にバレーボールの醍醐味や魅力を実感させ、意図した形での三段攻撃につなげる意欲を高めていきたい。

3 単元の目標

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
・チームにおける自分の役割を自覚して責任を果たしたり教えあったりして互いに協力しながら進んで練習やゲームをしようとする。	・ゲームの結果からチームや自分の新たな課題を明確にし、技能の向上に伴う新たな練習の仕方を選んだり、作戦をたてたりしている。	・チームや自分の能力に適した課題の練習やゲームを通して集団的技能や個人的技能を高めることができる。	・種目の特性や学習の進め方、集団的な技能や個人的な技能の構造、合理的な練習の仕方、練習計画の立て方を知っている。 ・運営やルール、審判の方法を知っている。

4 単元の評価規準

時間	学習内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
1	オリエンテーション チーム編成	積極的に話し合いに参加し、協力してチーム編成ができる。	チーム編成の仕方を考え、互いを認め合いながらチームの編成ができる。		
2	既習事項の確認 試しのゲーム 課題づくり	声を出して、互いに励ましあったり協力して試しのゲームができる。	試しのゲームを分析し、全体の課題を設定できる。	状況に応じて、パスを選択し、三段攻撃をねらうことができる。	
3	課題の相互評価を入れたゲーム1・ゲーム2	課題にそって互いに声を出し、励ましあったり、協力してゲームができる。	課題を考えた相互評価が的確にできる。	課題を意識して、解決するようにプレーすることができる。	相互評価の仕方がわかり、評価できる。
4	相互評価の課題設定と評価の仕方確認 相互評価 相互評価の分析	ゲームを楽しむために互いに声を出しているか積極的にゲームに参加しプレーしようとしている。	課題を考え、的確に評価ができる。	今持っている技能を發揮してゲームを行うことができる。	ゲームの運営やルール、審判の方法を知っている。
5	分析を生かした課題設定 課題解決の振り返り	自分や仲間の動きを課題にそって認め合おうとしている。	評価の分析を生かした課題が設定できる。	課題にそって、技能を高めることができる。	
6	集団的技能の練習を入れたチーム練習とゲーム	チームの課題にそって互いに励ましあったり、アドバイスをしながら練習やゲームができる。	チームの課題を分析し気づき、工夫して課題解決に取り組むことができる。	チームの課題を意識しながら、技能向上のために練習やゲームができる。	チームの課題にあった練習計画の立て方がわかる。
7	チーム目標と課題の練習	声を出してコミュニケーションを図っている。			ゲームの運営やルール、審判の方法を知っている。
8	練習の成果を確認するゲーム 練習とゲームの振り返り 課題設定	チームの目標にそって互いの動きを認め合おうとしている。			
9	リーグ戦	互いを認め合いながら楽しみながらゲームができる。	ゲーム中のチームの課題を発見し、仲間と確認しながらゲームができる。	三段攻撃ができるようパスやレシーブを確実にできる。	ゲームの運営やルール、審判の方法を理解し、実践できる。
10	リーグ戦	好プレーに拍手を送ったり、声をかけている。 不適切なプレーにはアドバイスやカバーを行っている。		コンビネーションプレーを意識した三段攻撃ができる。	

5 本時の指導

(1) 目標

- ・チームの課題にそって互いに励まし合ったり、アドバイスしながら練習やゲームができる。(関心・意欲・態度)
- ・チームの目標を意識しながら、技能向上のために練習やゲームができる。(技能)

(2) 具体の評価規準

観 点	具 体 の 評 価 規 準		努力を要する生徒への対応・手立て
	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	
関心・意欲・態度	チームの課題にそって互いに励まし合ったり、具体的なアドバイスをしながら練習やゲームができる。	チームの課題にそって互いに励まし合ったり、アドバイスしながら練習やゲームができる。	場面に応じた声のかけ方などを助言し援助する。
技 能	チームの課題を的確に分析し、技能向上のために合理的な練習やゲームができる。	チームの課題を意識しながら、技能向上のために練習やゲームができる。	課題を意識するように指示し具体的にどう動けばよいのかを助言し援助する。

(3) 本時の構想

基本的な技能の定着を図りながら、バレーボールのダイナミックな醍醐味であるスパイクをからめた攻撃を中心に授業を展開してきた。その中で、レシーブフォーメーションやブロックの仕方などの集団的技能を織りまぜ、チームで協力する方法を学んできた。まだまだ基本的な技能の習熟や集団的技能の質的向上は図られてはいない面もあるが、特別ルールを取り入れるなどしてバレーボールのダイナミックな攻防を味わわせたい。

(4) 展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点 評価 表現方法の工夫・手だて
導入 15分	1 用具準備・コートの安全確認 2 ランニング・体操・ストレッチ・補強運動 3 整列・挨拶 4 課題設定(チーム課題) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> レシーブフォーメーションを生かし、三段攻撃の攻防ができるように、チームの課題を解決しよう </div>	1 用具を準備し、コートの安全確認を行う。 2 チームごとにランニング・体操・ストレッチ・補強運動を行う。 3 チームごとに整列し、挨拶をする。 4 ゲームに関わる課題を設定し、相互評価の仕方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット、審判台、ラインズマン椅子、ホイッスルなど 声を出しながら意欲的に活動させる。 ・健康観察・見学・欠席者の確認をする。 ・おおよその相互評価の基準を確認する。 ・レシーブフォーメーションは、サーブレシーブとスパイクブロックの2パターンを考える必要があることを確認する。
展開 30分	5 チームミーティング 6 チーム練習 7 ゲーム	5 チーム目標の設定とレシーブフォーメーションの確認をする。 ・プリントを用い、自分のポジションを確認する。 6 チームの課題にそってチーム毎に練習を行う。 7 ゲーム順序と審判などの確認をしてゲームを行う。 ・1 チームが審判を行い、残り2チームが相互評価を行う。 ・相互評価をしながら、ゲームを分析する。	チームの課題を出し合い、課題となる技能や練習方法を考えさせる。 チームの課題を意識しながら、技能向上のために練習をしているか。 チームの課題にそって互いに励まし合ったり、アドバイスしながら練習を行わせる。 自分や仲間の動きを課題にそって認め合わせる。(声、拍手) チームの課題を意識しながら解決のするようにプレーしているか。 ・声のかけ方、相互評価の仕方などを助言する。
終末 5分	8 チームミーティング・自己評価 相互評価の分析と課題設定 9 全体ミーティング 10 整列・挨拶・後片付け	8 チームごとに集まり、相互評価の結果を見て、自己評価、次時の課題の設定を行う。 ・感想として、次の時間に気をつけることとして、設定させる。 9 チームの代表が課題について成果と今後の課題を発表し、次時の内容の確認をする。 10 整列をし、挨拶をする。後片付けを協力して行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価の結果をもとに、具体的にどんなことチームとして気をつけるべきかをアドバイスする。 互いにプレーを認め合えるような評価をさせる。 ・健康観察とケガの有無を確認する。